

「ヤバイ」と「エモい」

齊藤 征雄

若者言葉の「ヤバイ」は、すっかり定着したようだ。定着どころか、やがて今の若者たちが老いて「ヤバ」と言って臨終することを思うと、もはや若者言葉でもなくなる。「ヤバイ」に続いて数年前から「エモい」が流行っているらしい。英語の emotional を語源とする。

たとえば、うつすらと靄がたなびいている秋の夕暮れの風景。もの悲しくしみじみとした気持ちが湧き上がってくる。こんなときの気持ちを「エモい」と言うらしい。

情感的、郷愁、ノスタルジック、哀愁、こうした感情のいくつかが織りなして、何とも言えない良き懐かしさにも似た気持ちになったとき、それを言い表す適当な言葉が見つからない。そのような何とも言い表せない素敵な気持ちが「エモい」のである。

今感じている感情が、既存の形容詞のどれとも完全には一致しないときに使うという点で「エモい」は「ヤバイ」に近いのかも知れない。現にある割合の若者は「エモい」を「ヤバイ」の代用として使っているという。

しかし決定的に違うのは、「エモい」が肯定的な意味しか含まないのに対して「ヤバイ」は否定的なニュアンスも含んでいることである。

「昔のアルバムを見て大変エモい気持ちになった」と「昔のアルバムを見て大変ヤバイ気持ちになった」とでは、微妙にニュアンスが違うのである。

自分の気持ちを既存の日本語でストレートに表現せず、よく意味がわからない言葉、というよりも新しい単語を作り出してそれに自分流の意味を持たせて表現する現代の風潮に批判的な意見がある。もともと日本語本来の表現力を身に着けるべきだと。

その意見も分からぬではないが、しかし日本語はたとえば「イデオロギー」など新しい概念を表す言葉をそのまま外来語として取り入れてきた歴史がある。

「エモい」を既存の形容詞から探すとしたら、私には「あはれ」が最も近いと思われる。だけどもいままさら、平安時代の「あはれ」を使うよりは「エモい」の方がよっぽど現代的で良いと思うがいかがであろうか。